

昭和音楽大学大学院(博士後期課程)カリキュラム・ポリシー

音楽研究科博士後期課程 音楽芸術専攻 カリキュラム・ポリシー

各専門領域におけるきわめて高度な知識と教養および卓越した技能を持って自立して研究する能力を獲得する。将来、高等教育や高度な学術研究を担うために必要な、問題発見能力や課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解し、批判的に検証する能力、言語表現力やプレゼンテーション能力等を修得する。また、継続して教育研究を推進していく人材として、社会や文化に対する広い視野と高い識見を養う。

| 研究領域 | カリキュラム・ポリシー |
|--|--|
| 音楽芸術表現領域 声楽 器楽 作曲 | <p>実技研究・学術研究を両輪とする高度な研究を行うために、年次ごとの研究指導のもとで作成した研究計画書に基づいて研究を実施するとともに、その成果を段階的にまとめ、発表する。音楽作品、演奏様式、作曲家の音楽思想等についての知識を深めるとともに、音楽を研究するための様々な方法論を学び、それらを自身の研究の中で実践する。</p> <p>また、討論や研究発表等を通じて自ら問題提起を行い、プレゼンテーションの技術を修得する。最終的には、演奏や創作の実践的な研究と学術的な研究との統合の成果として、研究演奏発表または研究作品提出、および博士論文の執筆とその公表を義務付ける。</p> |
| 音楽芸術運営領域 舞台芸術政策研究 舞台芸術マネジメント 音楽療法 | <p>舞台芸術政策研究、舞台芸術マネジメント、音楽療法の分野における高度で学術的な研究を行うために、年次ごとの研究指導のもとで作成した研究計画書に基づいて研究を実施するとともに、その成果を段階的にまとめ、発表する。音楽を中心とする芸術文化についての知識と識見を深めるとともに、広い視野に立った学際的な研究を行うための様々な方法論を学び、それらを自身の研究の中で実践する。</p> <p>また、討論や研究発表等を通じて自ら問題提起を行い、プレゼンテーションの技術を修得する。最終的には、総括的な研究成果としての博士論文の執筆とその公表を義務付ける。</p> |